



# 飯豊町林道施設長寿命化計画

【個別施設計画】

計画期間

自：令和 3年4月 1日

至：令和 13年3月 31日

令和3年2月

飯豊町農林振興課

## 目次

第1編 共通事項.....	1
1-1. 基本的事項.....	1
1-2. 計画の流れ.....	2
1-3. 対象施設.....	2
1-4. 計画期間.....	2
第2編 林道橋.....	3
2-1. 点検方針.....	3
2-2. 橋梁修繕の優先度.....	3
2-3. 施設の状態等.....	5
2-4. 対策内容と実施時期.....	5
2-5. 対策費用.....	6
第3編 トンネル.....	7
3-1 点検方針.....	7
3-2 変状と健全性の診断.....	7
3-3 施設の状態.....	8
3-4 対策内容と実施時期.....	8
巻末1 対象橋梁一覧表、対象トンネル一覧表.....	9
巻末2 林道施設位置図.....	10
巻末3 林道橋梁の長寿命化計画優先度の検討結果.....	11

# 第1編 共通事項

## 1-1. 基本的事項

本町が管理する林道施設のうち、林野庁制定「林道施設長寿命化対策マニュアル（平成28年3月）」で対象とする施設は、令和2年12月末現在で橋梁22橋、トンネル1箇所となっている。

現時点で、供用開始から50年を計画した橋梁は12橋（全体の55%）だが、10年後には19橋となり、全体の86%を占め、急速に老朽化した橋梁が増える状況となる。

今後、橋梁及びトンネルの補修・更新に要する経費が増大することが見込まれることから、可能な限りのコスト縮減及び平準化への取り組みが不可欠となる。

これを踏まえ、林道施設の長寿命化と補修・更新に係るトータルコストの縮減や財政負担の平準化を図るとともに、林道利用者の車両通行の安全性を確保するため、「飯豊町林道施設長寿命化計画【個別施設計画】」を策定し、従来の事後保全的な補修・更新だけでなく、定期点検等により橋梁の現状を把握し、限られた予算内で予防的な補修及び計画的な施設の更新を着実に進めていく。

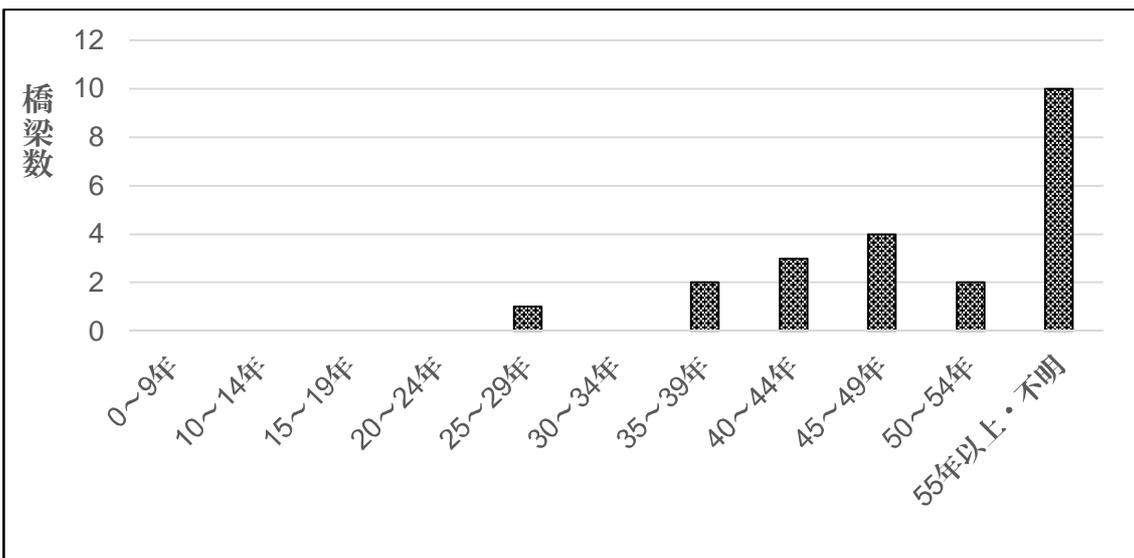


図1 現橋梁の供用年数

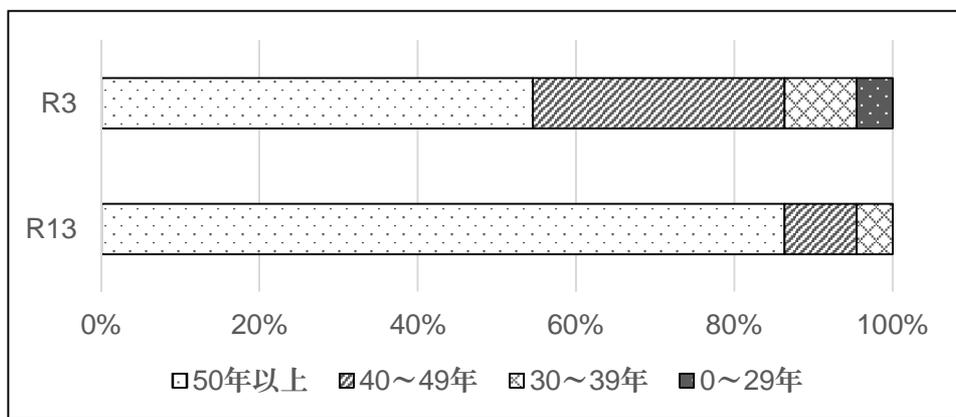


図2 架設からの経過年数の割合

## 1-2. 計画の流れ

### ●基本方針

これまでの機能しなくなった段階で更新する「事後保全型管理」から、経年劣化を未然に抑制するよう維持管理する「予防保全型維持管理」の考え方を導入し、個々の林道施設の現状を把握するとともに、これを踏まえた施設ごとの維持管理・更新等の内容について整理・計画することとする。

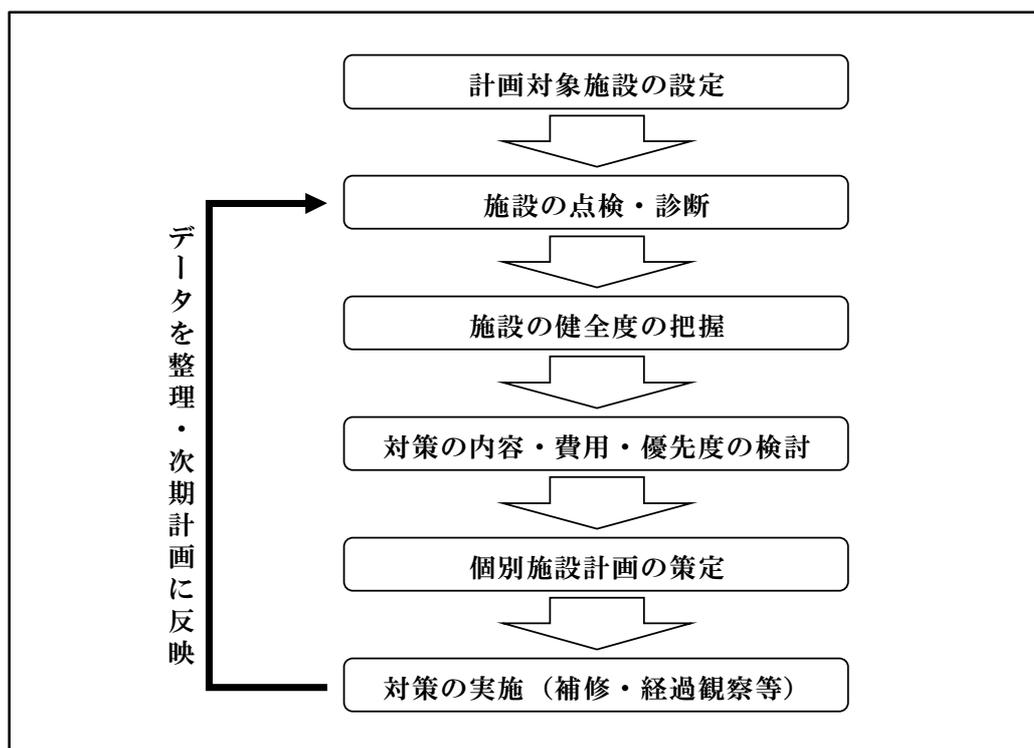


図3 計画及び対策の実施に係る流れ

## 1-3. 対象施設

本計画の対象とする施設は、林野庁が策定した『林道施設長寿命化対策マニュアル（平成28年3月）』の対象となっている、林道台帳に記載された4 m以上の橋梁（22橋）及びトンネル施設（1箇所）とする。なお道路の破損により併用林道<sup>(注)</sup> 葡萄沢線の通行不能となっている橋梁（5橋）については、点検の対象外としている。

（注）国有林管理者が協議により、町所管の林道を国有林林道に準じて取り扱う道路

## 1-4. 計画期間

この計画は、令和3年度から令和12年度までの10年間を当初計画期間とし、5ヶ年ごとに見直すことを原則とし、次期計画に反映させるものとする。

## 第2編 林道橋

### 2-1. 点検方針

#### 1) 通常点検

通行上の安全の確認、損傷の早期発見等を目的として、道路の日常巡回（パトロール）と併せて目視による点検を行う。

#### 2) 定期点検

林道橋の定期点検は、路線区分を開放型林道と閉鎖型林道、管理区分を予防保全型橋梁と一般管理型橋梁に区分し、点検パターン①～④の流れに従って行い、維持管理費のさらなる抑制に努めるものとする。点検は近接目視により行うものとする。

- (1) 開放型林道：森林施業と併せて山村等の交通基盤として、一般利用する林道  
飯豊桧枝岐線、天狗山線、中津川線、中ヶ沢線とするが、林道の使用状況に応じて閉鎖型と入替えるものとする。
- (2) 閉鎖型林道：もっぱら森林施業の通行車両が限られる林道  
開放型林道を除く林道。東沢線及び湯の沢線については、広河原間欠泉の温泉施設の休業により一般利用が見込めないため、営業再開までは閉鎖型林道として取扱う。
- (3) 予防保全型橋梁  
橋長15m以上の林道橋、又は緊急時の迂回路として供用されるものや跨線橋・跨道橋など常に健全性を確保する必要がある橋梁
- (4) 一般管理型橋梁  
橋長15m未満の小規模な橋梁及び新規設置橋梁など高い健全性が一定期間持続すると考えられる橋梁

表1 定期点検のパターン

路線区分	開放型林道		閉鎖型林道	
管理区分	予防保全型橋梁	一般管理型橋梁	予防保全型橋梁	一般管理型橋梁
点検パターン	①	②	③	④
点検間隔	新規設置後 5年以内			
	5年に1回		10年に1回程度	
	供用後50年を経過した橋梁、跨線橋・跨道橋など 5年に1回			

林野庁「林道施設長寿命化対策マニュアル」より抜粋

#### 3) 異常時点検

地震、台風、集中豪雨、豪雪などの災害が発生する恐れがある場合や災害が発生した場合、又は橋梁に重大な損傷が発見された場合などに、橋梁の安全性や損傷箇所を確認するため、必要に応じて緊急的に点検を実施する。

### 2-2. 橋梁修繕の優先度

施設の修繕に当たっては、点検結果による橋梁ごとの健全性の判定及び供用年数、事業計画等に基づいて優先度を設定する。健全性の判定は4区分とし、緊急措置段階を優

先度の上位とし、早期措置段階までの区分に順位付けをする。同じ健全性の判定区分にある橋梁については、供用年数及び今後の事業・施業計画に基づいて優先順位を設定する。なお、健全性の判定区分及び供用年数、事業・施業計画の順位については次に示すとおりとする。

1) 点検結果による健全性の判定

平成26年度から令和元年度に点検を実施し橋梁の健全度を判定した。

表2 橋梁施設の健全性の判定

区 分	状 態	橋梁数
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態	2
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態	15
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずるべき状態	5
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態	0
計		22

2) 供用年数による順位

橋梁を供用年数により順位を設定した。

表3 供用年数による順位の考え方と橋梁数

順位	優 先 度 の 適 用 条 件	橋梁数
高 ↑ ↓ 低	供用年数が50年以上	12
	供用年数が40～49年	7
	供用年数が30～39年	2
	供用年数が29年以下	1
合 計		22

3) 事業・施業計画による順位

橋梁を事業・施業計画の有無により順位を設定した。

表4 事業・施業計画による順位の考え方と橋梁数

順位	優 先 度 の 適 用 条 件	橋梁数
高 ↑ ↓ 低	5年以内に事業・施業計画があるもの	3
	10年以内に事業・施業計画があるもの	0
	10年以内で事業・施業計画がないもの	19
合 計		22

#### 4) 橋梁の重要度による順位

橋梁の先に施設がある、又は緊急時に迂回路になる等個別の事情があるものについては該当件数に応じて優先度へ加点する。

表5 橋梁の重要度判定項目

項目名	内容
施設	橋梁の先に施設がある
観光	橋梁の先に観光資源となるものがある
迂回路	緊急時の迂回路として利用可能な路線にある
利用頻度	事業・施業計画の他に地域で利用頻度が高い路線にある

### 2-3. 施設の状態等

本計画の策定にあたって実施した点検・診断により把握された橋梁ごとの破損等の状態及び費用、計画期間、実施時期については、対象橋梁一覧表のとおりである。

### 2-4. 対策内容と実施時期

点検結果による橋梁ごとの健全性の判定を行った結果、損傷度・型式等により補修が必要とされた20橋のうち健全性の診断が緊急措置段階（Ⅳ）及び早期措置段階（Ⅲ）と判定された5橋について計画的に補修を行う。なお、実施時期は2橋を前期に、3橋を後期に行うものとする。

また、定期点検については計画期間中に2回実施する。

表6 補修の実施時期と橋梁数

区分	前期 (令和3年～7年)	後期 (令和8年～13年)	計
補修	2橋	3橋	4橋
点検	22橋	20橋	42橋
事業費	55,000千円 補修：50,000 点検：5,000	50,000千円 補修：45,300 点検：4,700	105,000千円

#### 1) 情報の蓄積と利活用

点検及び修繕した結果は、橋の現状を把握するためデータ管理を行い効率的な維持管理を実施するとともに、橋梁の位置情報もデータ化を進めることにより必要な情報を管理し、今後の維持管理に活用することとする。

## 2) 長寿命化計画におけるトータルコストの縮減・平準化

橋梁の維持向上を図りながら中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減や財政負担の平準化を図る。

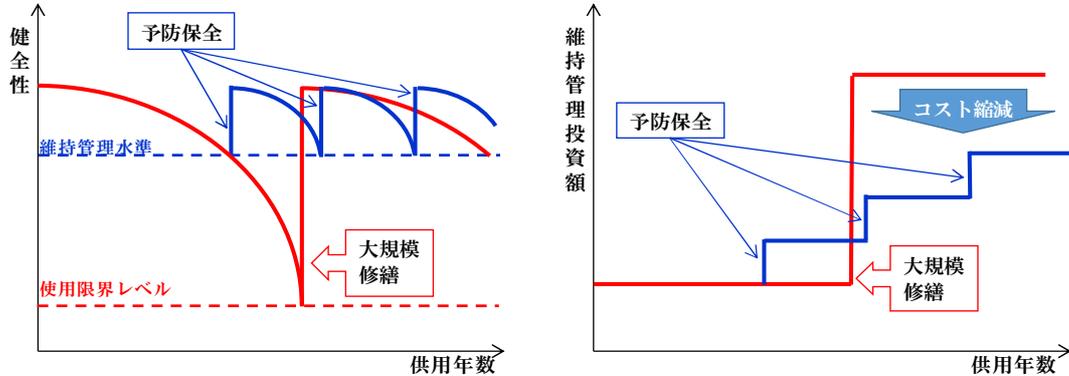
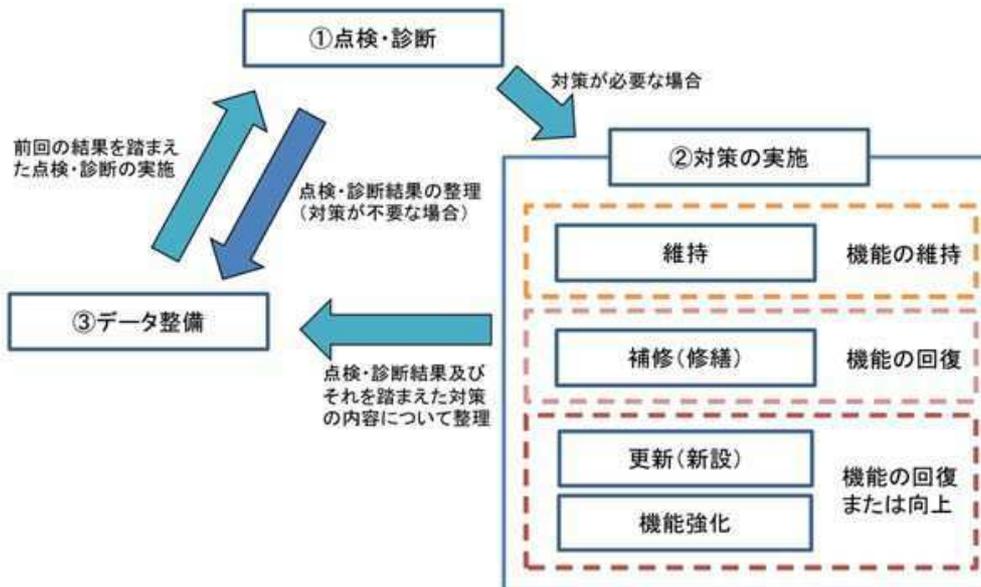


図4 予防保全による長寿命化と維持管理コスト縮減のイメージ



※林野庁「林道施設に係る個別施設計画策定のためのガイドライン」より抜粋

図5 メンテナンスサイクルのイメージ

### 2-5. 対策費用

この対策費用は、計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により金額に変動が生じることから、5ヶ年ごとに見直すことを原則とする。なお、財源については国の交付金等を積極的に活用し、一般財源の抑制・平準化に努めるものとする。

## 第3編 トンネル

### 3-1 点検方針

#### 1) 通常点検

通行上の安全の確認、損傷の早期発見等を目的として、道路の日常巡回（パトロール）と併せて目視による点検を行う。

#### 2) 定期点検

飯豊トンネルについては、本町大字岩倉地区と福島県喜多方市を結ぶ大規模林道・飯豊松枝岐線の行政境に位置しており、これまで大規模な修繕等は発生していない。またトンネル電気使用量などの維持管理経費については、トンネルの延長按分により支払いを行っているものの、定期点検及び大規模修繕の方針及び実施時期については、喜多方市と協議の上実施するものとする。定期点検の頻度については、5年に1回程度実施するものとする。

当該路線は、冬期間積雪により通行止めとなるため、融雪後に通行上の安全の確認のため、目視による点検を実施する。

#### 3) 異常時点検

地震、台風、集中豪雨、豪雪などの災害が発生する恐れがある場合や災害が発生した場合、又は重大な損傷が発見された場合などに、トンネルの安全性や損傷箇所を確認するため、必要に応じて緊急的に点検を実施する。

### 3-2 変状と健全性の診断

施設の修繕に当たっては、点検結果による健全性の判定に基づいて優先度を設定する。健全性の判定は4区分とし、緊急措置段階を優先度の上位とし、早期措置段階までの区分に順位付けをする。健全性の判定区分は次に示すとおりとする。

#### 1) 点検結果による健全性の判定

平成25年度に点検を実施しトンネルの健全度を判定した。

表7 トンネル施設の健全性の判定

区 分	状 態	トン初数
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態	1
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態	0
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずるべき状態	0
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態	0
計		1

### 3-3 施設の状態

飯豊トンネルについては平成25年度に点検を実施しており、その後飯豊町・喜多方市双方の職員による目視による点検により維持管理を行っている。

### 3-4 対策内容と実施時期

点検結果によるトンネルについては、コンクリートのクラック、剥離等が確認されたものの、現状大規模修繕を実施する状況にはない。今後定期点検を実施する中で修繕時期について検討を進めるものとする。定期点検については計画期間中に2回実施する。

表8 補修の実施時期と橋梁数

区分	前期 (令和3年～7年)	後期 (令和8年～13年)	計
補修	—	—	—
点検	1箇所	1箇所	2箇所
事業費	2,500千円	2,500千円	5,000千円

#### 1) 情報の蓄積と利活用

点検及び修繕した結果は、トンネルの現状を把握するためデータ管理を行い効率的な維持管理を実施するとともに、トンネルの位置情報もデータ化を進めることにより必要な情報を管理し、今後の維持管理に活用することとする。

#### 2) 長寿命化計画におけるトータルコストの縮減・平準化

トンネルの維持向上を図りつつ、2-5橋梁施設の維持管理コストも含めた中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減や財政負担の平準化を図る。



飯豊トンネル (右上：トンネル内部)

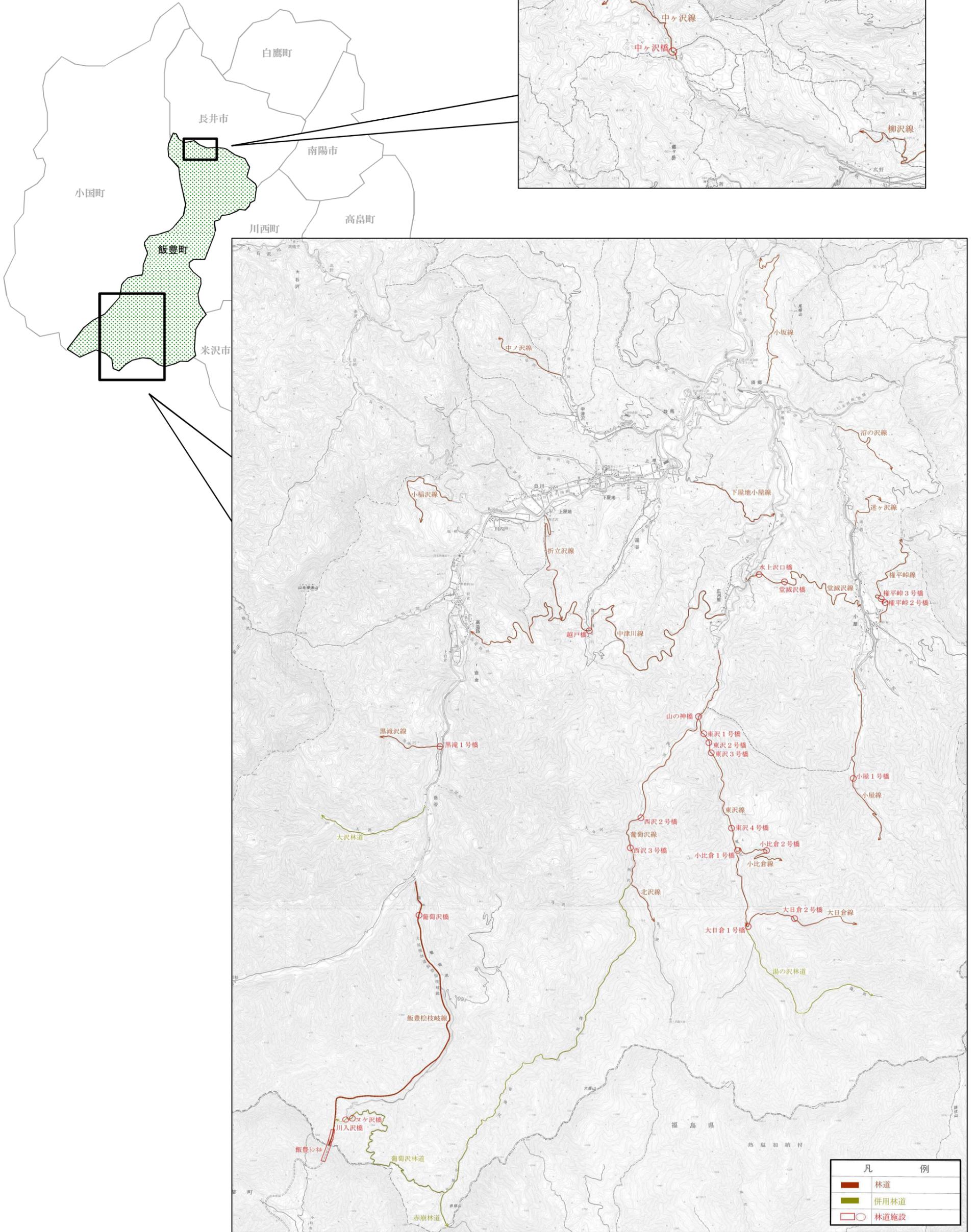
対象橋梁一覧表

整理番号	橋梁名称	路線名	箇所	交差物名 (河川名等)	竣工 年次	橋 齢 R3	橋 種	橋種形式	径 間 数	点 検 年 次	橋 長  (m)	路線区分	管理区分	次回点検	幅員		橋面積 (㎡)	桁下高 (m)	水深 (m)	健全度	点検車		点検方法			備考	
															有効幅員 (m)	全幅 (m)					要 否	可 否	地 上	梯 子	点 検 車		
1	東沢1号橋	東沢線	大字広河原	広河原川	不明	不明	RC	1(RC橋) KT(桁橋T桁)	1	H26	13.00	閉鎖型	一般管理	5年	3.00	3.00	39.00	3.70	0.30	Ⅲ	×	—	○	○		37° 52' 17" 139° 53' 22"	
2	東沢2号橋	東沢線	大字広河原	広河原川	不明	不明	RC	1(RC橋) KT(桁橋T桁)	1	H26	13.00	閉鎖型	一般管理	5年	3.00	3.00	39.00	3.70	0.30	Ⅲ	×	—	○	○		37° 52' 12" 139° 53' 26"	
3	東沢3号橋	東沢線	大字広河原	広河原川	不明	不明	RC	1(RC橋) KT(桁橋T桁)	1	H26	13.00	閉鎖型	一般管理	5年	3.00	3.00	39.00	3.70	0.30	Ⅲ	×	—	○	○		37° 52' 04" 139° 53' 26"	
4	東沢4号橋	東沢線	大字広河原	広河原川	不明	不明	鋼	1(鋼橋) KH(桁橋H桁)	1	H26	22.30	閉鎖型	予防保全	5年	3.60	4.30	95.89	3.00	0.26	Ⅱ	×	—	○	○		37° 51' 19" 139° 53' 28"	
5	小比倉1号橋	小比倉線	大字広河原	広河原川	不明	不明	RC	1(RC橋) KH(桁橋T桁)	1	H28	12.70	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	3.60	45.72	3.70	0.30	Ⅱ	×	—	○	○		37° 51' 15" 139° 53' 16"	
6	大日倉1号橋	大日倉線	大字広河原	広河原川	S43	53	RC	1(RC橋) KH(桁橋T桁)	1	H28	11.70	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	3.60	42.12	3.70	0.30	Ⅲ	×	—	○	○		37° 50' 30" 139° 53' 11"	
7	堂減沢橋	堂減沢線	大字広河原	広河原川	S52	44	鋼	合成H桁橋	1	H29	15.70	閉鎖型	予防保全	5年	4.00	4.80	75.36	3.70	0.30	Ⅱ	×	—	○	○		37° 53' 48" 139° 54' 29"	
8	越戸橋	中津川線	大字遅谷	広河原川	S61	35	鋼	合成H桁橋	1	H29	16.46	開放型	予防保全	5年	4.00	4.80	79.01	3.70	測定 不可	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 53' 44" 139° 52' 04"
9	葡萄沢橋	飯豊桧枝岐線	大字岩倉	葡萄沢	S56	40	鋼	単純合成鉄桁橋	1	H30	25.44	開放型	予防保全	5年	7.00	8.20	208.61	3.70	0.60	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 51' 19" 139° 49' 12"
10	黒滝1号橋	黒滝線	大字岩倉	置賜白川	S39	57	鋼	単純鋼I桁橋	1	H30	12.00	閉鎖型	一般管理	5年	3.00	3.40	40.80	3.70	0.50	Ⅲ	○	○	○	○	○		37° 52' 55" 139° 49' 12"
11	小屋1号橋	小屋線	大字小屋	大日沢	S46	50	RC	単純RCT桁橋	1	H30	14.00	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	4.00	56.00	3.70	0.30	Ⅱ	×	—	○	○		37° 51' 37" 139° 54' 53"	
12	権平峠2号橋	権平峠線	大字小屋	不明	S47	49	RC	単純RC床版橋	1	H30	7.50	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	4.10	30.75	3.70	0.20	Ⅱ	×	—	○	○		37° 53' 20" 139° 55' 47"	
13	権平峠3号橋	権平峠線	大字小屋	不明	S47	49	RC	単純RC床版橋	1	H30	5.40	閉鎖型	一般管理	10年	3.60	4.10	22.14	3.70	0.20	Ⅰ	×	—	○	○		37° 53' 23" 139° 55' 47"	
14	川入沢橋	葡萄沢線	大字岩倉	不明	S37	59	RC	単純RCT桁橋	1	H30	12.10	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	4.10	49.61	3.70	0.30	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 49' 30" 139° 47' 48"
15	ヌケ沢橋	葡萄沢線	大字岩倉	不明	S37	59	RC	単純RCT桁橋	1	H30	12.10	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	4.10	49.61	3.70	0.30	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 49' 29" 139° 47' 50"
16	水上沢口橋	堂減沢線	大字広河原	水上沢	不明	不明	RC	単純RC床版橋	1	H30	5.40	閉鎖型	一般管理	10年	3.60	4.10	22.14	1.50	0.20	Ⅰ	×	—	○	○		37° 53' 54" 139° 54' 09"	
17	中ヶ沢橋	中ヶ沢線	大字菟生	菟生川	S53	43	RC	単純RC床版橋	1	R1	6.00	開放型	一般管理	5年	3.00	3.50	21.00	未測定	未測定	Ⅱ	×	—	○	○		38° 05' 01" 139° 56' 25"	
18	山の神橋	葡萄沢線	大字広河原	西沢	S60	36	鋼	単純鉄桁橋	1	R1	15.40	閉鎖型	予防保全	5年	4.00	4.80	73.92	未測定	未測定	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 52' 39" 139° 53' 10"
19	西沢2号橋	葡萄沢線	大字広河原	西沢	H8	25	鋼	単純鉄桁橋	1	R1	17.00	閉鎖型	予防保全	5年	3.60	4.40	74.80	未測定	未測定	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 51' 48" 139° 52' 12"
20	西沢3号橋	葡萄沢線	大字広河原	西沢	S40	56	鋼	単純鉄桁橋	1	R1	16.50	閉鎖型	予防保全	5年	3.60	4.20	69.30	未測定	未測定	Ⅱ	○	○	○	○	○		37° 51' 31" 139° 51' 59"
21	大日倉2号橋	大日倉線	大字広河原	大日倉沢	S47	49	RC	単純RCT桁橋	1	R1	12.50	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	4.00	50.00	未測定	未測定	Ⅱ	×	—	○	○		37° 50' 27" 139° 53' 48"	
22	小比倉2号橋	小比倉線	大字広河原	小比倉沢	S47	49	RC	単純RC床版橋	1	R1	5.30	閉鎖型	一般管理	5年	3.60	4.10	21.73	未測定	未測定	Ⅱ	×	—	○	○		37° 51' 11" 139° 53' 38"	

対象トンネル一覧表

整理番号	トンネル名称	路線名	箇所	始点 終点	竣工 年次	施 設 齢 R3	トンネル分類 トンネル工法	点 検 年 次	坑門型式	延長  (m)	幅員		高さ (中央) (m)	内空 断面積 (㎡)	次回点検	舗装		健全度	高所 作業車		点検方法			備考	
											車道幅員 (m)	全幅 (m)				種別	厚さ (cm)		要 否	可 否	地 上	梯 子	点 検 車		
1	飯豊トンネル	飯豊桧枝岐線	大字岩倉	飯豊桧枝岐線 一の木線	H10	23	陸上トンネル掘削工法 NATM工法	H25	面壁型	878.1	6.00	7.60	5.60	47.50	5年	コンクリート	25.0	Ⅰ	○	○	○	○	○		37° 49' 17.83" 139° 47' 29.26"

卷末2 林道施設位置図



巻末3 林道橋梁の長寿命化計画優先度の検討結果

整理番号	橋梁名称	路線名	橋長(m)	路線区分	管理区分	次回点検	優先度	評価点	判定区分				供用年数				事業・施業計画			施設の重要度				概算工事費(千円)	対策内容	備考				
									IV	III	II	I	点数	50年以上又は不明	40~49年	30~39年	29年以下	点数	5年以内	10年以内	点数	施設	観光				迂回路	利用頻度	点数	
1	東沢1号橋	東沢線	13.00	閉鎖型	一般管理	5年	高	100		○			40	○				50			0	○				10	37,000	主桁・床版等の断面補修又は上部工架替	37° 52' 17" 139° 53' 22"	
2	東沢2号橋	東沢線	13.00	閉鎖型	一般管理	5年	高	100		○			40	○				50			0	○				10	37,000	主桁・床版等の断面補修又は上部工架替	37° 52' 12" 139° 53' 26"	
3	東沢3号橋	東沢線	13.00	閉鎖型	一般管理	5年	高	100		○			40	○				50			0	○				10	37,000	主桁・床版等の断面補修又は上部工架替	37° 52' 04" 139° 53' 26"	
4	東沢4号橋	東沢線	22.30	閉鎖型	予防保全	5年	中	70			○		20	○				50			0					0				37° 51' 19" 139° 53' 28"
5	小比倉1号橋	小比倉線	12.70	閉鎖型	一般管理	5年	中	70			○		20	○				50			0					0				37° 51' 15" 139° 53' 16"
6	大日倉1号橋	大日倉線	11.70	閉鎖型	一般管理	5年	高	90		○			40	○				50			0					0	16,400	主桁・床版等の断面補修	37° 50' 30" 139° 53' 11"	
7	堂減沢橋	堂減沢線	15.70	閉鎖型	予防保全	5年	中	60			○		20		○			30	○		10					0				37° 53' 48" 139° 54' 29"
8	越戸橋	中津川線	16.46	開放型	予防保全	5年	中	50			○		20			○		20			0				○	10				37° 53' 44" 139° 52' 04"
9	葡萄沢橋	飯豊桧枝岐線	25.44	開放型	予防保全	5年	中	80			○		20		○			30			0	○	○	○		30				37° 51' 19" 139° 49' 12"
10	黒滝1号橋	黒滝線	12.00	閉鎖型	一般管理	5年	高	100		○			40	○				50	○		10					0	3,900	床版・地覆等の断面補修、高欄補修	37° 52' 55" 139° 49' 12"	
11	小屋1号橋	小屋線	14.00	閉鎖型	一般管理	5年	中	70			○		20	○				50			0					0				37° 51' 37" 139° 54' 53"
12	権平峠2号橋	権平峠線	7.50	閉鎖型	一般管理	5年	中	50			○		20		○			30			0					0				37° 53' 20" 139° 55' 47"
13	権平峠3号橋	権平峠線	5.40	閉鎖型	一般管理	10年	中	30				○	0		○			30			0					0				37° 53' 23" 139° 55' 47"
14	川入沢橋	葡萄沢線	12.10	閉鎖型	一般管理	5年	中	70			○		20	○				50			0					0				37° 49' 30" 139° 47' 48"
15	ヌケ沢橋	葡萄沢線	12.10	閉鎖型	一般管理	5年	中	70			○		20	○				50			0					0				37° 49' 29" 139° 47' 50"
16	水上沢口橋	堂減沢線	5.40	閉鎖型	一般管理	10年	中	60				○	0	○				50	○		10					0				37° 53' 54" 139° 54' 09"
17	中ヶ沢橋	中ヶ沢線	6.00	開放型	一般管理	5年	中	60			○		20		○			30			0				○	10				38° 05' 01" 139° 56' 25"
18	山の神橋	葡萄沢線	15.40	閉鎖型	予防保全	5年	中	40			○		20			○		20			0					0				37° 52' 39" 139° 53' 10"
19	西沢2号橋	葡萄沢線	17.00	閉鎖型	予防保全	5年	中	20			○		20			○		0			0					0				37° 51' 48" 139° 52' 12"
20	西沢3号橋	葡萄沢線	16.50	閉鎖型	予防保全	5年	中	70			○		20	○				50			0					0				37° 51' 31" 139° 51' 59"
21	大日倉2号橋	大日倉線	12.50	閉鎖型	一般管理	5年	中	50			○		20		○			30			0					0				37° 50' 27" 139° 53' 48"
22	小比倉2号橋	小比倉線	5.30	閉鎖型	一般管理	5年	中	50			○		20		○			30			0					0				37° 51' 11" 139° 53' 38"

優先度評価	
90以上	高
70~89	中
69以下	低

点数			
IV	III	II	I
100	40	20	0

点数			
50年以上 不明	40~49年	30~39年	29年以下
50	30	20	0

点数	
5年以内	10年以内
10	5

点数			
施設	観光	迂回路	利用頻度
10	10	10	10